

敷島北小学校 学校関係者評価書（前期）

平成25年7月19日（金）

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成25年7月19日（金）午後7時～

会場：敷島北小学校会議室

参加者：学校関係者評価委員 新津 健 保延昇一 雨宮清一 中込潤一
保延浩子 飯沼秀司 佐野秀俊 緑川和彦（小田切保人 欠席）
学校側 校長：廣瀬文武 教頭：河西慶仁 教務主任：松橋 勝

I 学校側から提案された内容

学校側教務主任から6月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

○市全体と比較してみると次のようになる。

①教職員の「自己評価」結果から

I 学校教育目標・学校経営について

ほとんどの項目で、質問項目に対して「A そう思う」と回答し、学校教育目標に即した教育活動が実践されていると評価している。その中において、「6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」の項目においては、「B ややそう思う」が「A そう思う」を上回っているが、「5 あなたの学校はP→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている」が8割近くが「A そう思う」と評価していることを考慮すると、やや自己には厳しい見方をした傾向がみてとれる。

II 学校運営について

学校運営については、10項目中の7項目で「A そう思う」が一番多く回答された。「2 危機管理マニュアル」については、毎年見直しをしながら、様々な状況を想定した訓練を実施することが年間計画に位置づけられている。「8 校内研究」については、「豊かな表現力の育成」をテーマとした2年目にあたり、11月には公開研究会が予定されており、その集大成に向けて研究が本格化してきた。「10 特別支援教育」については定期的かつ機会あるごとに、「特別支援校内委員会」を開き、ケースごとの対応について共通理解を図っている。

III 学習指導について

「2 学びの意欲の喚起」や「5 評価規準と評価方法を明確にした授業」「7 質問や発言が出てくる授業」の項目については、「B ややそう思う」が「A そう思う」を上回っているものの、「3 基礎・基本の定着を図る授業」や「6 教材教具や備品の活用」「8 宿題や家庭学習に対する指導」では「A そう思う」が7割を越え、「10 授業時数の確保」では9割が「A そう思う」が9割にのぼっており、学習の基礎基本が定着することを目指して、児童への指導を心がけている姿が推察される。

IV 生徒指導について

本校では、生徒指導委員会・特別支援校内委員会を月に1度、定例で開くとともに、

懸案事項が生じた際には職員打合せ等のなかでその都度報告がなされ、各学年や学級での児童の様子や諸問題等について共通理解を図っている。そのため、学校としての生徒指導体制には良い回答が多かった。一方で、「3 生き方教育」や、「4 問題行動に対しての早期発見や対応」については全校体制として改善する余地が残されていることが示された結果であった。

V 地域との連携について

地域並びにPTAとの関わりや協力体制については、5年生の米づくりに代表されるように、その頻度や関わり方が学年によって異なっている。そのため、「B ややそう思う」が多くなったものと思われる。「2 情報収集」については、職員からの働きかけがまだまだ可能であると言えるだろう。「7 学習指導や生活指導への協力」という項目で「A そう思う」と「B ややそう思う」に分かれていることから、保護者の学校への関わり方が多様であることを示しているといえるかもしれない。

VI 学校の特色に関して

8項目中の7項目で「A そう思う」が一番多く回答された。「6 ALTの活用」については、「A そう思う」と「B ややそう思う」に分かれたが、今年度、ALTが替わり、その関わり方を模索しながらも国際理解担当を中心に打ち合わせをとりながら指導を進めてきている。また、「8 特色ある取り組み」については、年間指導計画や教育課程にそって諸活動に取り組みつつ、改善や工夫をしながら教育活動を進めていくことが大切であるといえよう。

②「児童アンケート」結果から

- 1 学校は楽しいですか
- 2 クラス(学年)に仲の良い友達がありますか。
- 3 こまったことがあったら、相談できる友達がありますか。
- 4 人がこまっているときは、進んで助けていますか。
 - ・ 1～4の4項目については、「A よい」の回答が市の平均を3.6～7ポイント近く上回り、学校生活全般や友達との関係については良好である子どもが多いことが伺える。特に、「3こまったことがあったら、相談できる友達がありますか。」については、9割が「A いる」と答えており、友達とのつながりを深めている姿が感じられる。
- 5 学校の授業は楽しいですか。
- 6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。
- 7 算数の授業の内容はわかりますか。
 - ・ 5～7の3項目については、「A よい」の回答が市の平均をやや下回っているものの、全体の割合としては、市の平均とほぼ同様である。1割弱が「授業は楽しくない・あまり楽しくない」としながらも、「授業の内容がわからない」「あまりわからない」は4%ほどと、低い値になっている。
- 8 授業(勉強)でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。
- 9 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。
 - ・ 先生との関わりについては、「A よい」の回答が市の平均を若干上回っている。しかし、どちらも15%ほどの児童は、肯定的ではない回答をしている。
- 10 授業中に質問や意見を言っていますか。
 - ・ 率先して発言をする方ではないが、指名されたり、言わなければならない状況にな

ったりすれば発言できるという姿が想像できる回答の分布である。

- 11 宿題を忘れずにしていますか。
 - ・宿題への取り組みは、ほぼ良好といえる回答結果であったが、「D していない」と常習化が感じられる回答をした児童も若干見られる。
- 12 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。
 - ・学年ごとに設定した時間に対し、「A いつもしている」の回答が市を下回っているものの、8割以上は「A いつもしている」「B だいたいしている」と良好な回答している。
- 13 家の人と学校での様子を話していますか。
 - ・2割ほどはあまりしておらず、市全体と比べても若干低くなっている。
- 14 月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。
- 15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
 - ・14・15の項目については、全体の分布は市の値とほぼ同様であるが、就寝時刻が午前0時過ぎの児童も3%ほどいる。
- 16 朝ごはんを食べて登校していますか。
- 17 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。
 - ・16・17の項目については、「A よい」の回答が市の平均を3～7ポイントほど上回っている。
- 18 月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしめますか。
 - ・「A 2時間以上」の児童は市の値を下回っているものの、「30分未満」の児童の割合も下回っていることから、全体としては若干上回っている様子が見られる。
- 19 将来の夢や希望を持っていますか。
- 20 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。
- 21 清掃活動をしっかりしていますか。
- 22 委員会活動にしっかり取り組んでいますか。
 - ・19~22の項目については、全体の分布は市の値とほぼ同様であるが、「清掃活動」と「委員会活動」は「D していない」が0%であり、特に「委員会活動」では「C あまりしていない」も0%と、意欲的な回答のみで占められた。

【以下 学校オリジナル設問】

- 24 本を読むことが好きですか。
 - ・ほぼ90%が読書に対して好意的な回答であった。
- 25 親子で本を読むことがありますか。
 - ・過半数が「あまりない・ない」と答えたが、学年による違いが大きく見られた。
- 26 友達のためになると思うことは、進んでしますか。
 - ・「A」と「B」の割合に違いは見られるものの、全学年にわたって、9割ほどが「する・ときどきする」と答えた。

(2) 今後の方針 (改善策)

①「自己評価」結果からの取り組み

年度が変わって

今年度の職員構成は、管理職の異動もなく、職員もごく少数の異動にとどまり、非常にスムーズに新年度を迎えることができた。北小の子どもたちの状況や地域性等を理解した上で、子どもたちの健やかな成長を願って、学校教育目標やめざす児童像の共通理

解をもちながら、中堅・ベテランの教職員がその力量を発揮し、教育活動を推し進めている。学級数の減少に伴い、1学級の児童数が多くなっている現状があるが、市単教員やアクティブ、きめ細かの教員の加配があるので、児童に目を配った指導を行うことができている。

今後の取り組み

I 学校教育目標・学校経営について

ほとんどの項目で「A そう思う」との回答であったが、さらなる上を目指して邁進するとともに、「P→D→C→Aサイクルの教育活動」については、教職員各々が日々の実践のなかでそれを意識しながら教育活動を推し進めていきたい。

II 学校運営について

「危機管理マニュアル」については、万一に備えて早い段階での周知徹底を図りたい。「校内研究」については、本年度のテーマにそって研究を深めながら、11月の公開研究発表で2年間の集大成を発表できるように取り組んでいきたい。

III 学習指導について

「授業時数の確保」ができていることを踏まえ、基礎基本の定着をこれまで同様に図りながら、授業の内容や質のさらなる向上を目指し、児童に学びの喜びをいっそう味わわせるように心がけていきたい。

IV 生徒指導について

「生き方教育」にかかわって「キャリア教育」の教育計画を今一度確認しながら、全校体制的に取り組んでいくとともに、これまでと同様に児童の問題行動等についてはいち早く職員間で共有するとともに、児童の様子についてアンテナを高くし早期発見を心がけていきたい。

V 地域との連携について

学校の様子を広く知っていただくよう、ホームページ等で逐一情報発信をしている。おやじの会や母親の会の方々に全校的な活動にご協力をいただいたり、外部講師をお招きした教育活動を行ったりしてきたが、今後もさらにお力添えをいただくことが計画されている。

VI 学校の特色に関して

「ALTの活用」については、派遣元とも連絡を密に取りながら、より有効な指導のあり方を検討し、改善を進めてきている。教育課程にそって教育活動を進めながらも、常に改良や工夫の余地がないかを考慮しつつ、敷島北小教育がより良いものになるよう取り組みを進めていきたい。

②「児童アンケート」を受けて

一人ひとりを大切に

市全体との比較では、アンケート項目の半数で良い値が上回っているもの、まだまだ課題が見られることは、前述したとおりである。また、良くないとの回答をした児童もあり、その点については状況を見つめ直しながら、早急な対応をしていく必要があると言えるだろう。そのためには、目の前の児童の姿を改めて見つめ直し、それぞれの個性

をしっかりと把握しつつ、一人ひとりにきちんと目を向けて指導や援助にあたっていくことが求められている。それと同時に、家庭との連携をいっそう密にしながら、学習や生活面での指導に一丸となって取り組み、健やかな児童の成長を目指していきたい。

主体的に活動できる児童を

本校児童の懸案事項とされてきた「挨拶」について、児童アンケートでは95%が「A よい・B だいたいよい」と地域の人に挨拶をしていると回答し、過日の民生委員さんとの懇談会のなかでも子どもたちがよく挨拶をしてくれるという声が多く出されるなど、改善されてきている様子がうかがえるが、これが一時的なものに終わることなくよい伝統となるように、学校内はもちろんのこと、地域や家庭においてもこれまで同様に、子どもへの声かけをお願いしていきたい。それと同時に、されるのを待つのではなく、児童自身が率先的に動くことができるように、働きかけをこれからも続けていきたい。

③「自己評価」・「児童アンケート」の相関から

学習にいっそう前向きな児童に

教師と児童の繋がりは良好であると言える一方で、学習に対しては受け身的な児童の様子も見られる。児童が学習の主体者となって取り組むことができるようにわかる授業をこれまで以上に目指して取り組んでいくとともに、配置していただいている支援員等を交えたより有効な指導の形を検討しながら学習指導に当たっていききたい。

学年の成長をふまえて

小学校は1年生から6年生という幅広い年齢層で構成され、発達段階の違いが大きいいため、アンケートに対しても、年齢により回答の傾向に大きな違いがでている。そのことを踏まえ、改善すべき点を短期的な視野で終わらせず、長期的な視野を持ちながら、学校教育を推し進めていきたい。

表現力豊かな児童に

質問や意見を進んで言うことに苦手意識や抵抗を感じてしまっていたり、上手に自分の考えを伝えられない児童も少なからず見られる。自分の考えや言いたいことを、相手にきちんと伝わるように話したり、文章で表現したりする力の向上を目指して、校内研究を進めている。

II 協議された主な内容 評…評価委員 学…学校側

①教員の資質の向上について

評…自己評価のPDCAサイクルについて、毎年同じような傾向が出ているが、授業で子ども達の意見を吸収できない等指導に不安をもっている教師がいるのではないか。それに対して、学校全体としてフォローする体制づくりをしないと「A評価」が増えないのではないか。

学…教師自身が自信をもって「A」をつけづらいのではないか。学校は校内研究や各種研修会で、指導力をアップする取り組みをしているので、2回目の評価までに結果を出したい。本校は、ベテラン教師が多く、指導力はあると思われる。さらに教職員評価制度で、管理職が授業を観察し、指導力アップのための助言等を行っている。

評…「A」と「B」の評価の差は非常に難しい。「A」は、完全にそうであると思わなければつけられないのではないか。少し不安があると「B」評価になる。む

しろ「B」評価の方が良識的であると思われる。「A」に近づく努力はして欲しいが、質問の仕方の難しさを感じる。

評…校内研究は「豊かな表現力の育成」をテーマにして2年目であるが、どのような授業（方法）で「表現力豊かな児童に」導こうとしているのか。

学…昨年度から、研究授業をして各学年で取り組んでいる。昨年度は、まず、国語科を中心に言葉を使った表現の仕方を、今年度は、教科を国語に限定せずに、自分の考え（思ったこと）をいかに人に伝えるかに主眼を置き研究を進めている。自分の考えを相手に納得してもらえるように表現する力をつけさせたい。

評…1年生から6年生まで共通のテーマか。効果はどうか。

学…本年度は、まだ研究途中であり、集大成は、11月の公開研究会でご覧いただけたと思うが、昨年度は、教材研究をしながら、どう表現するか模範を示し、それを取り入れながら研究授業をした結果、今まで人前で話すのに抵抗があった児童が表現できるようになった事例もある。2人からグループ、さらに学級全体でというように段階を踏んだ指導で、できるようになってきている。今、6年生ではディベートの授業もあり、表現力を付けることの重要性が求められている。今年度は、各教科の中でも、その力を付けるよう取り組んでいる。また、学習規律の徹底など基本的なことから学力・表現力のアップにも取り組んでいる。

評…北小の子どもは、問10に見られるように「授業中に質問や意見を言っていますか」が市全体と比べると、「A」が低い。1年間取り組んでの結果なのか。

学…まだ、上昇途中であると思われる。取り組みを始める前は、発言する子が限定されていた。改善されてきてはいるが、苦手意識をもっている子がまだいる。

評…中学校でも北小の子は、発言する力が弱いようである。この課題にもっと取り組んで欲しい。学習面（教室の中）だけではなく、個々の子どもの良いところが生きるような場面で発言できるような環境づくりをしていくことが大切だ。

学…子ども一人ひとりの個性が生きるような場を設定していきたい。

評…PDCAサイクルで教師の資質を高めるためには、会議や制度のみに頼るのではなく、教師同士のコミュニケーションを活発にし、熱い気持ちで後輩を育てていくことが大切だ。

②危機管理及び楽しい学校づくりについて

評…昨年、危機管理上で、効果はあがったのか。突発的な避難訓練等は実施したのか。

学…予告なしの避難訓練は実施しなかったが、防災体験や、警察官を招いての防犯教室など実施し、子ども達の危機管理能力を養う取り組みをすすめている。今年度は機会を見て、予告なしの避難訓練を実施したい。

評…避難所運営マニュアルはあるのか。

学…甲斐市が避難所マニュアルを定めている。有事の際にはそれを基に避難所が運営されることになる。

評…「学校が楽しくない」「友達がいない」と回答している（「C」「D」評価）子がいて、気になる。個人は特定できているのか。フォローはできているのか。

学…無記名なので、わからないが、Q-U検査の結果等も踏まえて、担任が把握する努力をしている。

評…「不登校」はどうか。

学…今年度は、登校しぶりのある児童が数名いるが、長期間欠席している児童はいない。

評…「いじめ」はどうか。

学…今のところないが、アンケートは1つの方法でしかないので、毎月生徒指導上の情報を出し合い、学校全体でみる体制づくりをしている。

評…「A」になることだけにはこだわらないが、「C」「D」にならないような、指導・支援をお願いしたい。

評…自転車の乗り方の指導はどうか。

学…今のところ大きな事故はないが、危ない乗り方の報告はある。折に触れ指導をしている。

評…携帯電話はどうか。

学…原則、学校に持ってこないことになっている。今のところトラブルの話は学校には届いていない。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

- 1 PDC Aサイクルによる取り組みは、評価できるが、教職員の自己評価でもっと「A」が付けられるように自信をもってほしい。
- 2 教員の資質の向上とともに児童の表現力を伸ばす指導に期待したい。
- 3 「学校は楽しい」「仲良く遊ぶ友達がいる」「人が困っているときは進んで助ける」「わからないことは先生に聞ける」など「A評価」が増え、楽しい学校生活を送っている様子が見える。

II 特徴

- ・今回の教職員の自己評価書及び児童アンケートの結果から、全体的には改善された項目が多く、評価も「A・B」がほとんどを占め、良好な結果であったと思われる。
- ・少数ではあるが、「学校が楽しくない」と感じている児童がいることが気に掛かる。
- ・授業中に質問や意見を言う児童が増えてはいるものの、市全体との比較では、まだ「A評価」の割合が少ない。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇「学校が楽しい」に「C・D」評価をした児童に対して、「Q-U検査」の結果等も踏まえて、フォローする体制を築いていかなければならない。
- ◇「学校が安全で楽しい場所」となるようマニュアルの見直しや訓練等を実施する必要がある。
- ◇教職員間の共通理解を図り、より充実した支援体制を築くことが必要である。

※特記事項

なし

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 飯沼 秀司